

中山道間の宿 新加納 まちづくり会かわら版

第7号
平成25年
12月15日
発行
新加納まちづくり会
会長 小島秀俊

各務原市の平成二十五年度事業として、①中山道樹形部、今尾医院く北の中山道（那430号線）の改修工事 ②一里塚周辺の歴史景観整備、案内版、常夜灯設置。
③新加納駅く南の中山道（那422号線） ④西田商店く赤のれん（那456号線）
*③④は通学路の整備。そして⑤新加納駅前広場の新設、及び案内看板・かえる設置。
さらに、鍋屋バイテック南の東西道路く県道前（那431号線）の改良工事。
新加納地域で、工事が始まります。
完成は、来年三月の予定です。

植栽、自然石、蛙、案内版等設置。

⑤ 駅前
広場
自転車・車
進入禁止
西田商店

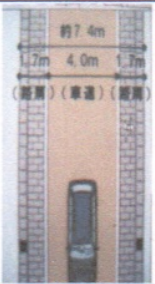
通学路肌色舗装
③（写真左）



④通学路肌色舗装



①



赤のれん

中

山

慶長9年(1604年)
一里塚を築き、左右に
榎が植えられていた。

交差点茶色舗装

享和元年(1801年)
立湯茶屋「梅村屋」があり
休憩所として栄えました。



一里塚完成予想図

一里塚周辺広場
・2対高木植栽
(エノキ) 予定
歴史景観。
・日吉の蛙設置。
(高さ1m)。
・案内版設置。
・ベンチ
(自然石)
広場の南側
・常夜灯設置。
(高さ1m)

今尾医院
～赤のれん

那430号線
*車の
速度抑制。
・車道4m
*歩行者
優先。
・歩道両側
1.7m
(石調透水
ブロック)

第5回各務原市 都市景観賞受賞

十一月二十七日
景観シンポ
ジウム表彰式
中山道新加納
立湯地区は、市
の美しい景観に
寄与する「まち
なみ部門」で、
都市景観賞を受
賞しました。
江戸時代、中
山道「間の宿」
で栄えた場所
で、
樹形様に折れ
曲がっている姿
は、宿場町の趣
も感じられます。



中山道間の宿 新加納



親子がえる

歴史のまち探訪

水奉行高木家と柏原宿を見学

十月十八日、台風一過天氣に恵まれ、会員二十一
人が参加しました。
当日は、大垣市の「上石津郷土資料館」と中山
道「柏原宿歴史館」を訪ね見聞を広めました。

上石津郷土資料館

高木家(西東北)は、江戸
時代木曾三川水奉行「大名
の格式・交代寄合」(参勤交
代)として活躍しました。
濃尾平野を潤す木曾川、
長良川、揖斐川の堤防工事
や治水を行う普請奉行を務
めました。
宝暦四年(1754年)
日記(蒼海記)に難工事の
様子が記されています。
資料館には、西高木家屋
敷絵図・鎧陣笠等、今も往
時を偲ぶ宝物が展示されて
います。

中山道60番目 柏原宿

柏原宿は、近江に入って
最初の宿場で、東山道の頃
から栄えていました。
盛時には、名物のもぐさ
屋が数十軒あり、旅人の疲
れを癒しました。
特に亀屋左京の「福助人
形」は、全国に有名です。
歴史館に入ってすぐ柏原
宿のビデオ観賞。
そして展示館は、江戸時
代の「浮世絵の中山道・萬
留帳・高札など」展示され、
時の過ぎるのを忘れ見学し
ました。



旗本西高木家表門
岐阜県史跡



柏原宿歴史館
国の登録有形文化財

読み捨て 新加納立場地区

まめ歴史事典



ききょう
♥変わらぬ心♥
戦国武将 明智光秀
は、桔梗の花を家紋
とした。(水色地白)



文明九年(1477)
祐貞は、木狛犬を
寄進。手力雄神社に
現存しお宝です。

室町時代

薄田源左衛門尉 藤原祐貞と那加

薄田氏は、尾張の豪族・守護代斎藤氏の家臣

文明7年(1475年)

室町時代、那加の地域には、薄田源左衛門尉藤原祐貞と佐良木三郎尚頼二人の在地領主がいた。

薄田祐貞は、久我領荘園にあたる部分の「新加納・長塚・北洞周辺」の領主でした。

佐良木尚頼(土岐成頼三男)は、大徳寺領荘園にあたる「山後・前野・西市場周辺」の領主で、那加前野の前洞に館を構えた。(名残、御屋敷・大門先の地名)

薄田祐貞と佐良木尚頼 交戦

明応3~7年(1494~98年)

船田合戦 土岐成頼の長子政房(斎藤方・薄田氏)と末子元頼(石丸利光方・佐良木氏)の間で、守護職相継争いが勃発し、祐貞と尚頼は交戦した。



文明九丁 西冬、願主慈能(祐貞入道後の名)は、手力雄神社(長塚宮)を厚く崇敬した。

梵鐘と木狛犬を寄進!

祐貞(文明7年・9年) 長塚宮へ

結果、斎藤方の薄田祐貞が勝利。薄田祐貞などは、弓削田本郷国衙(朝廷直轄地大徳寺領)の代官や在地領主に任命された。敗者の元頼、尚頼は相次いで自害した。

手力雄神社「長塚宮」に寄進された鐘は、高さ三尺四寸(約1m)、口径一尺九寸(57cm)重さ2225kg。銘には、次の文字が刻まれている。

室町の梵鐘

小振りだが形も音も良い。

美濃國各務郡弓削田庄佐良木郷
長塚宮推鐘 檀那
薄田源左衛門尉藤原祐貞
禰宜藤原兼光 大工兵衛
衛太夫藤原友次結集五十余人
文明七年乙未 十一月二十八日
(岐阜県重要文化財指定)

文明7年(1475年)に手力雄神社の鐘として作られたが、その後尾張の高田寺、万松寺へ、明治9年(1876年)無動寺の光得寺へ今も現存しています。



文明7年 光得寺の梵鐘
(笠松町無動寺 221)

少林寺の由来

「寺伝」によると、室町時代の文明年間(一四六九~八七年)に、在地の土豪薄田氏が一族の居宅を寄付したことから始まるといわれています。

龍潭山少林寺 建立!

薄田氏開基・東陽英朝開山

明應8年(1499年)

尾張の豪族 薄田加賀守 祐貞は、禅宗の高僧東陽英朝(土岐氏出)を招き新加納村に少林寺を建立しました。



少林寺